



じょうの 城野遺跡公園を実現する会

会報 第5号
2019年8月23日発行

北九州市小倉南区域城野/JR日豊本線・JR日田彦山線「城野駅」南口から徒歩3分

5月26日に第2回定期総会を終え、「実現する会」の活動も2年目に入りました。

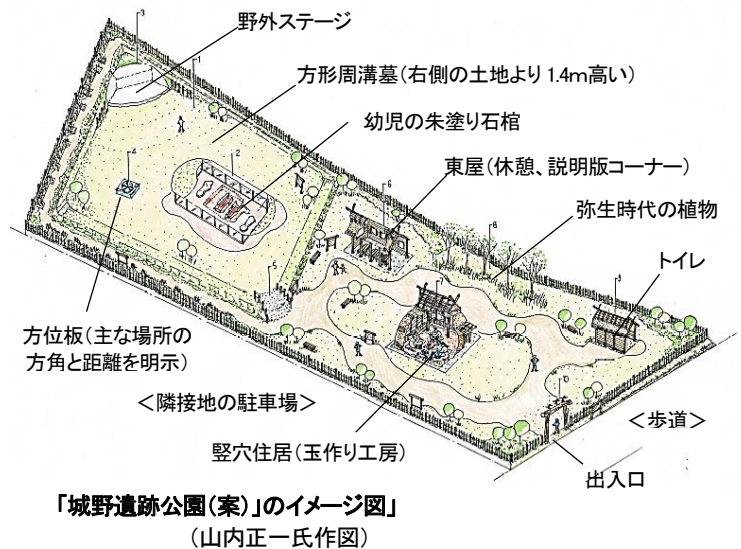
2009年6月に城野遺跡の発掘が始まり、翌年の7月に石棺の人物画が「方相氏か」の記事が報道されました。発掘調査開始から10年の歳月が流れ、遺跡保存が遅々として進まない中、今年2月中旬に市計画の「史跡広場」のみならず唯一現地在が保存される方形周溝墓まで開発工事により一部損壊しました。「実現する会」や日本考古学協会の抗議を受けて、北橋市長は3月20日の記者会見で遺跡の損壊を市民に謝罪し、保全と復旧を急ぐ旨発言しました。7月5日から始まった「史跡広場」と方形周溝墓の復旧工事も終わり、西エリアは「城野複合店舗」の建設工事が急ピッチで進んでいます。

市は「史跡広場」の具体的な計画を示していません。狭いながらも貴重な遺跡公園として整備・活用されるように「実現する会」から積極的に提案しようと、右記の「城野遺跡公園(案)」のイメージ図を作成しました。この案をたたき台に北九州市に初めての人々が集い、学び、歴史体験できる遺跡公園の実現へ取り組んでまいります。

我が国には、「文化財保護法」という法律・指針があり、各地の自治体はその精神に沿って文化財保護行政を進めています。ある会員から、横浜市の例が報告されました。横浜市北部の都筑区に広がる港北ニュータウン計画事業の中で、昭和40年代半ばより約20年をかけて遺跡発掘調査が行われ、昭和61年に国史跡に指定された弥生中期の環濠集落遺跡と方形周溝墓は「大塚・歳勝土(さいからど)遺跡公園」として保存・復元・整備され、近接の横浜市立博物館とともに市民が憩い、子どもたちの学習と遊びの場になっています。

北九州市は事あるごとに文化都市を表明しますが、人間の行動が文化であり、その積み重ねが歴史です。大切な文化財を「未来に残す・未来と分かち合う」を念頭に日々行政に当たってもらいたいものです。文化とは何かを再考し、文化財行政に矜持を持ち、「一度壊した遺跡は元に戻らない」ことを自覚し、国指定重要文化財の「広形銅矛」(広形銅矛としては全国唯一)が出土した重留遺跡の轍を踏まぬよう願うばかりです。

今期も城野遺跡をはじめ北九州の豊かな原始、古代の歴史を学び、広めながら、北九州市の埋蔵文化財行政のあり方を問い、市民が誇れる城野遺跡公園の実現へ取り組みます。今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。(会長 万田 守)



●5/26(日) 第10回特別講演会『戈を持つ人—城野遺跡の絵画を巡る旅—』を開催しました！

弥生時代の絵画研究の考古学者である常松幹雄先生(福岡市埋蔵文化財課主任文化財主事)を講師に迎え、城野遺跡の九州最大級の方形周溝墓で見つかった幼児の朱塗り石棺に描かれた絵画文様についてご講演いただきました。

城野遺跡の発掘調査中の2009年12月の視察で、この絵画文様は「武器を持った人物」ではないかと話したこと、周囲の反応はいま一つだったが、その後、原始絵画研究の第一人者である設楽博己先生(東京大学教授)が人物表現であり「方相氏」との関連も述べられ安堵したこと、1ヶ月後に再度見に行ったら朱の鮮明さが薄れており保存の大切さを考えさせられたことなど、城野遺跡の絵画文様を初めて見られた時の感動が伝わってきました。全国各地で発見された弥生時代の絵画の特徴や変遷から、弥生人の考え方や表現の仕方を紐解かれ、城野石棺の絵画文様の学術上の重要性を語られました。まだまだ謎を秘めた研究の余地のある城野遺跡の魅力が深まるとともに、1800年前の弥生人に思いを馳せ、古代ロマンあふれる講演会でした。



常松幹雄先生(小倉タイムスより提供)

2015年12月に初めて開催した「学習会&現地見学会」から数えて10回目の特別講演会でした。

●5/26(日) 第2回定期総会を開催しました！

第10回特別講演会終了後に、第2回定期総会を開催しました。ご参加、ご協力ありがとうございました。詳しくは「第2回定期総会のご報告」をご覧ください。

●4/14(日) プチツアー第3弾『小倉城全部みてやろ〜』に参加しました！

今回は、何度も見慣れているつもりの小倉城を、新たな目線でながめるツアーと聞き、また役員さんの熱心な勧誘もあり参加することにしました。あいにくの雨でしたが33名もの方々が参加されていました。

市役所の北玄関に集合し、案内役の佐藤浩司氏の解説を聞いて、「大手先門」に向かいました。ここですと案内されたけど、どこが門か?と見渡すが…。実は案内用の標石が全然違う位置に立っており、これもお城防衛の戦略かと善意に得心。案内のお陰で、ほとんど気にしたこともなかった内堀の石垣の不自然さから、その延長線上に大きな門があったと聞かされて、こんなの「知らなかったあ」と納得。次は、「大手前広場の南出口」側の白い角石が忍者の格好に似ていると指摘され、あらほんと。江戸時代の人もそう見ていたのかな、なんて想像しながら「大手門」に戻りました。門の両側に使われた大石から、本丸の正面を飾る大事な門だったことがわかるか。また、門の突き当たりの石垣には「鏡石」といって、わざと目立つような大石を使うらしいってことも知らんよなあ、「チョコちゃんに叱られる!」かも。この後、佐藤氏がみんなに探させたのは、「石垣に刻まれた刻印」です。あった、あった、「卍」の形がくっきりとね。石垣築造に携わった石工の目印だとか。注意して見ているか見てないかってことでしょうか。そして立派な天守閣石垣を見ながら、北の丸に続く「多聞口門」の階段を下りると、これって昔の階段?門の礎石らしい石もいくつかありました。八坂神社から堀を渡り紫川方向へ。その先を南に折れると大きな入口…。「枘形(ますがた)構造」というらしく、その両脇の石の目が面白い。またさっきと同じ「卍」印が見つかりました。最後は、リニューアルされた「天守閣」(資料館)に登ったけど、あまりインパクトがなかったです。四階のアニメ展示はスルー。今日は、小倉城が天守閣だけじゃないことがよ〜くわかり、「目から鱗」でした。



雨の中、「目から鱗」の話しに聞き入る参加者

ホームページ「城野遺跡公園を実現する会」で情報発信しています。ぜひご覧ください

城野遺跡のほぼ全域が破壊され、落胆のあまり更新停滞気味ですが...

●遺跡(方形周溝墓)損壊や埋蔵文化財センターの移転問題に関する市議会報告

<教育文化常任委員会の陳情審査報告>「埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転」は撤回し、市民・専門家による検討委員会の設置を!

3月に教育文化常任委員会(議員10名)のメンバーが入れ替わり、これまで発言者は限られていましたが、新たに発言する議員が増えました。

4月19日は、昨年8月の市長記者会見で公表された「移転計画」見直しを求める陳情の審査が行われました。埋蔵文化財センター職員には寝耳に水の「計画」発表でした。建物保存は決まったものの活用策が保留となっていた旧八幡市民会館へ移転し、跡地は売却する計画です。現在地の小倉北区金田は「一等地」で、売却益と固定資産税収入も見込めるとしています。

埋蔵文化財センター周辺には、勝山公園の万葉の庭、小倉城、長崎街道、太平洋戦争の遺跡、文学館、文書館、松本清張記念館、建設予定の平和資料館など、北九州市の豊かな歴史と文化に出会える場所が集積し、原始・古代からの歴史の語り部として、埋蔵文化財センターはこの地域の価値と魅力を発信する重要な公共施設であり、更なる活用が望まれるところです。ところが、埋蔵文化財センターの意義等は一切議論せず、会議録さえ「ない」市長他関係局長の会議で決定されたことも明らかになりました。

7月11日には「八幡市民会館の活用を求める連絡会」(竹下秀俊代表)も反対の口頭陳情を行いました。内部を壊してしまっただけでは村野藤吾作品の価値を損ねるとして、本来の音楽ホールの機能を残すよう、専門家を交えての再検討を求めました。

八幡市民会館の保存活用を求める陳情は、これまで「公共施設マネジメント」(企画調整局)担当の「廃止ありき」の考えで、文化的・歴史的価値を無視して「総務財政委員会」で議論されてきました。今回初めて「教育文化委員会」の審査となり、ここに城野遺跡と八幡市民会館をめぐる運動が繋がりました。陳情は継続審査となりましたが、8月21日に基本計画が発表され、現在、対応策を検討しています。

<遺跡(方形周溝墓)損壊問題> 事業者の「誤認」?市の管理責任は明確、文化財保護行政の改善を!

7月11日には遺跡損壊問題と「史跡広場」についての審査も行われました。損壊は事業者の誤認として「顛末書」(情報開示されました)が市に提出されましたが、市が工事に立ち会っていれば防げたかもしれないと市長もコメントしており、市の管理責任が問われます。「史跡広場」の内容は全く明らかにしておらず、決定前に関係者や専門家、市民に意見を聞くよう強く求めました。

～年会費お支払いのお願い～

2019年度年会費(個人 1000円、団体 2000円)未納の方は、末尾記載のゆうちょ銀行の振替口座にお振込みください。また、カンパへのご協力もよろしくお願いいたします。
※同封の振替用紙も使えます。

●城野遺跡の方形周溝墓一部損壊に抗議!…日本考古学協会、九州考古学会の動きは全国に波紋

前回の会報4号の発行直前に、城野遺跡をめぐる大きな動きがありました。現地保存されるべき城野遺跡が開発業者により、一部破壊を受けたことで、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会は3月11日付で市長と所管課である市民文化スポーツ局に対し、抗議文を提出しました。城野遺跡を日本歴史にかかわる極めて重要な遺跡と位置づける協会は、今回の遺跡損壊に強く抗議した上で、遺跡破壊にいたった経緯を明らかにすること、また方形周溝墓を速やかに史跡として保存し、整備・活用をはかること、としています。

続いて九州考古学会も5月7日付で両者に要望書を提出。こうした事態を繰り返してきた北九州市に対し、市内に所在する各種の重要遺跡を適切に保存・活用できるような体制を整備し、具体的な方策を明らかにすること、と一歩踏み込んだ要望が出されました。

また、「実現する会」からも北橋市長宛に「城野遺跡広場及び方形周溝墓損壊に関する質問状」を提出しました。これらの要望書に対し、日本考古学協会、「実現する会」への回答は同日の3月29日にそれぞれ届きましたが、その内容は、今回の事態が開発業者の不備・不注意で起こったこととの認識を示し、「今後業者へ一層の指導を行い、文化財担当者の工事立会を強化する」というもので、業者への責任転嫁のスタンスを崩していません。

遺跡は現状復旧もなされないまま梅雨を迎えました。北九州市の埋蔵文化財行政はどうしてこんなに、世間を騒がせるのでしょうか。文化財を守るという使命を負った職員、組織、そして市政が欠如しているからではないでしょうか。

城野遺跡は全国の研究者や関心ある国民が注目する遺跡です。今後の具体的保存・整備策もないまま、月日だけが過ぎていきます。

●9/22(日)プチツアー第4弾「海のもこの歴史を訪ねて!」を開催!(詳細は案内チラシをご覧ください)

関門海峡を挟んで北九州と下関は、太古の昔から交流がさかんで、土器や石器、生活様式やおまつりの儀式などに深い関係がみられます。下関市綾羅木にある綾羅木郷遺跡は、弥生時代前期からの大集落ですが、遺跡保存を訴える熱心な市民運動により守られ、整備・公開された国指定史跡で、私たちの活動にも大いに参考になる遺跡です。

今回はそこで見つかった弥生時代のムラや古墳、また併設されている下関市立考古学博物館の見学を通して、両地域の文化交流と遺跡保存のあり方を考えるツアーです。皆さま、ふるってご参加ください!



復元された竪穴住居跡(綾羅木郷遺跡)

●10/20(日)第1回「連続講座」開催!(詳細は案内チラシをご覧ください)

城野遺跡、重留遺跡のすぐ近くにある小倉南図書館で「北九州市の豊かな弥生遺跡を通して原始・古代の歴史と文化を探る」連続講座を隔月で開催できることになりました!皆さま、ふるってご参加ください!

それなんのこと? 考古学用語解説コーナー



古代中国の方相氏

方相氏(ほうそうし)

中国の戦国～前漢時代(B.C 5～3世紀前後)の書物『周礼(しゅらい)』にでてくる悪霊など邪気を払う役人の呼び名で、日本には律令時代に宮中の鬼を追い払う追儺(ついな)の儀式にも登場した。

城野遺跡の箱式石棺の木口(こぐち)石にみられる絵画文様はこの「方相氏」であるという見解が東京大学設楽博巳教授から出され、論議を呼んでいる。

古代中国の方相氏は四つ目で左手に「盾(たて)」、右手に武器の「戈(か)」を持っており、石棺の絵画文様が方相氏なら、弥生人の葬送儀礼(そうそうぎらい)を読み解く鍵になりそうだ。



●●● 会員募集中 ●●●

会の目的にご賛同いただける個人や団体の入会を広めてください。入会申込書と年会費(個人 1000円 団体 2000円)が必要です。入会希望がありましたら、下記連絡先(永田)までご連絡ください。

発行日 2019年8月23日
発行者 城野遺跡公園を実現する会
編集担当 高橋徹雄
連絡先 永田由起(事務局長)
TEL 090-3079-6503 FAX 093-951-3524
振替口座 ゆうちょ銀行 01780-0-147174
「城野遺跡公園を実現する会」